

医療情報を提供する 患者図書室及び患者情報室 に関する調査

池上英隆(いいなステーション)
和田ちひろ(いいなステーション)
山室真知子(京都南病院)
武藤正樹(国立病院機構長野病院)
山野辺裕二(国立成育医療センター)
片山環(悪性リンパ腫患者家族連絡会「グループ・ネクサス」)
多和田奈津子
瀬戸加奈子(東京大学先端科学技術研究センター)
中馬良子(NPO 法人医療機関内図書サービスito)
平原憲道(いいなステーション)

いいなステーション: <http://www.e7station.com>
担当: 池上英隆 ikegami@e7station.com



調査概要

- 59施設を対象に郵送調査
- 44施設が回答(回収率74.6%)
- 職員図書室、一般書のみ扱っている患者図書室
8箇所を除く

[36施設の回答をもとに分析](#)



患者図書室の問題点



1. モノ
→場所・設備の問題
2. カネ
→予算の問題
3. ヒト
→スタッフの問題
4. 情報
→資料の問題
5. ネットワーク
→連携の問題

1.モノの問題 —「部屋」について



「設立経緯」

- **鶴の一声 4割強**
- 全館禁煙に伴い、喫煙室だったスペースを患者情報室に
- 改築に伴いOP室が移転し、そのスペースを獲得
- 医療安全やインフォームド・コンセントの一環(例:新葛飾病院、阪南中央病院)

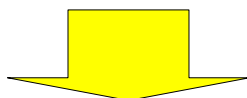
「設置場所」

- **外来棟 4割(16ヶ所)**
- 入院棟 6ヶ所
- 管理棟 7ヶ所

1.モノの問題 —「部屋」について



- 鶴の一声がないと患者図書室はできない？
事例)
 - **大阪医療センター**: 患者(遺族)が患者情報室のための資金提供を申し出、NPOが運営
 - **大阪厚生年金病院**: ボランティアが巡回図書サービスや患者情報室の設立を提案



患者図書室の設置は誰でも提案できる！

2.ヒトの問題 —常駐スタッフ



- | | |
|---------------|-----------|
| ● ボランティアが常駐 | 24箇所(67%) |
| ● 司書が常駐 | 12箇所(33%) |
| ● 看護師が常駐 | 4箇所 |
| ● その他(事務職員など) | 15箇所 |
| ● 誰もいない | 4箇所 |

(複数回答)

2.ヒトの問題 —常駐スタッフ



- ボランティアだけじゃダメ？
 - **ボランティアのメリット**: 利用者の目線に近い。個別的・個性的なサービスが提供できる。
例) 大阪医療センター: 新聞記事収集、パンフレット整理など、ボランティアが独自のワザを発揮
関西労災病院: 患者会が相談を受け付け
 - **ボランティアのデメリット**: 専門的知識・技能(医療、福祉、情報検索、など)が不足している。画一的なサービスが提供できない。



デメリットを補完するための専門スタッフを!
情報提供サービスも「チーム医療」

3.カネの問題 —年間予算



- 年間予算あり 50%
 - 10万円未満 5
 - 10万円以上50万円未満 7
 - 50万円以上100万円未満 1
 - 100万円以上 2

3.カネの問題 —年間予算



- 予算がなかったらどうする？
 - お金がなくてもできること: 本を寄贈してもらう、新聞記事、パンフレット、インターネットなどの資料を活用する。他施設と連携する。
 - 独自でお金を集める
例) 大阪医療センター: 講演会の資料・講演録を販売、基金を作って寄付を受け付ける。

独自の収益システムを作ることも考慮に！
予算がある場合も継続的に出るように！

4. 情報の問題 —揃えている資料



- 一般向け医学書 100%
 - 1～99冊: 11%、100～499冊: 39%、500～999冊: 19%、1000冊以上: 14%、不明: 17%
 - 貸し出し可能: 44%
- 闘病記 91.7%
- インターネット 75%
- 患者会資料 55.6%
 - 置いていない理由: 「それぞれの患者会がどのような資料を出しているか分からないから」 56.3%
 - 825の患者会のうち、6割以上の会が何らかの冊子や会報を発行している(東大2005)

4. 情報の問題 —揃えている資料



- どんな情報をどうやって揃えたらいいのか？
 - 数・量の問題: 予算の増加、寄贈の受付、連携
 - 種類の問題: 書籍(闘病記、専門書)、インターネット、パンフレット、視聴覚教材、患者会、生の体験談
 - 質の問題: 情報公開、信頼できる情報の選定
 - 例) 医学論文の公開、疾病別の情報リストの作成



「数」だけでなく、多様な情報、信頼できる情報を！

5. 連携の問題 —該当資料がない場合の連携先



- 案内しない 11 (30.5%)
- 他の患者図書室 4
- 公共図書館や書店 18 (50%)
- 病院図書室 2
- 医学図書館 4
- その他 17
 - うちインターネット 8

5. 連携の問題

—該当資料がない場合の連携先



- 連携できないのはなぜ？
 - 広報不足、スタッフが知らない
→パンフレットやポスター、広報誌、院内メール、「鶴の一声」、巡回図書、イベント
 - どこに連携すべきか分からない
→情報収集、ネットワークの構築、他施設の見学



積極的にいろんな人にアピールを！
協力してくれる仲間はたくさんいるはず

最後に





質問より

- 患者図書館と他の図書館（公共図書館など）との機能の違いはあるか？＜東京医科歯科大学図書館石井さんより＞

→ 共通の機能

- 本を読むことによる癒しの機能
- 情報を提供する（収集する）機能

→ 患者図書館独自の機能

- 情報提供（収集）機能が医療情報に特化
- 本を読むというだけでなく、その場所自体が癒しに
- レファレンスだけでなく、医療相談も受付



補足

- 添付資料「患者の自己学習環境の整備状況と患者向け医療書の選定に関する研究報告書2006（簡易版）」の完成版は8月上旬に完成予定です。
- 患者図書室リストについて、他に医療情報を提供している施設や、掲載されている施設の詳細情報があればご連絡下さい。患者図書室並びに医療情報を得られる他施設のデータについてはいいなステーションのホームページで近日公開予定です。

いいなステーション：<http://www.e7station.com>
担当：池上英隆 ikegami@e7station.com